

学び合い助け合い逆境を克服

札幌で研究会 CAL研究会

CAL研究会は4月21、22の両日、札幌市内で研究会を開催した。北海道での開催は初めて。テーマは「逆境を笑顔で乗り越えていこう！」。

冒頭LCL役員の生川正洋氏が基調講演。「われわれに待ち受けるのは、高齢化によって活力を失い経済力が低下したとてつもなく厳しい時代」を前提とし「SSの経営に携わる身としては、自分の頭で考え決断する勇気——自立を目指す精神が必要。ポイントは物事の本質を見通す聡明な頭脳を持つこと、物事を決定するときためらわず決断する勇気を持つこと、そして他者を思いやる『仁』の精神を持つこと」と呼びかけた。

智頭石油社長の米井哲郎氏は、同社の事業を例にSSと顧客を結ぶカーライフ



受け身の売り方から提案する売り方へ

アプリ「マイピット」、保険レンタカー「ほけレン」、「車両管理システム」などを紹介。「石油製品を軸に関連サービスを生み出し、地域社会に貢献できる会社を目指す」と述べた。

智頭石油TCS部長の中本智昭氏は同部の取り組みを発表。

「後輩の成長を楽しみに仕事をしている。彼らが新しい発想を出してきたら、実現させてあげたいと思うようになった。希望を持ち自分の人生を楽しみたい」と話した。

目見田商事社長の目見田純也氏は同社

の事業について「車検に特化している。車検の数はお客さまの信頼の数。分かりやすく、親切、丁寧がキーワード。提案力と解決力の質の向上が利益につながる」と強調。

努力すれば車は誰でも売れる

山下石油社長の山下真司氏は、「新車を売らないとカーケア商品が売れない時代が来る。車を販売することが最大の防御」と、同社で試行中の「新車乗るだけ7」などを説明。

「車を売るためには、人、環境、技術の3つの壁がある。しかし車は本気になって努力したら誰でも売れる」と力説。

三浦石油社長の三浦忠良氏は、同社の経営理念見直しや、社内に組織したプロジェクトチームの活動などを報告。

「良い会社にするためには全社員が主導的に行動しなければならない。社員はみんなそれぞれいいものを持っている。それを表現する場を与えるのが経営者の責務。社員の立場で『良い会社』とはどういう会社かということを、自らのテーマにしている」と話した。